

ハガキによるあなたの「平和論」③

鹿児島県 岩下豊

「私にとって平和とは何か」。いまさら自問自答するまでもなく私がいまこうして「ハガキによる平和論」のためのペンを執ることができるのも、すべて平和なればこそです。

かつて死と向き合いながら、暗く、おぞましい絶望の青春を過ごした私たちは、学業半ばにして、ペンを銃に代えて遠く戦場に赴いたのです。当時は「死」を恐れぬことが最高のモラルであり、なんにも考えないことが最上の美徳とされ、絶望することさえ許されなかった人間不在の時代でございました。

このヒューマニティーの欠如と政治の不毛がもたらした日本の悲劇を、もう二度と再び繰返してはならないのです。「平和」とは、決して選挙運動用の殺し文句などではなく、もっと慎み深く、愛に満ちた、暖かいことばであるべきはずです。真の平和とは、日々の暮らしの中で、営々と刻苦する無名の人たちの限りない協力の輪が少しずつ広げられていくことによるのみ達成されていくのではないのでしょうか。